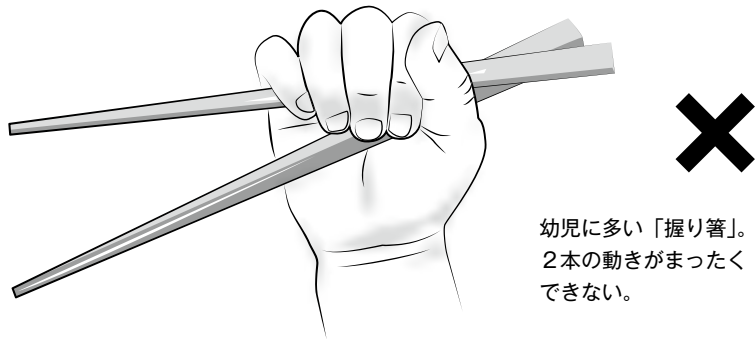


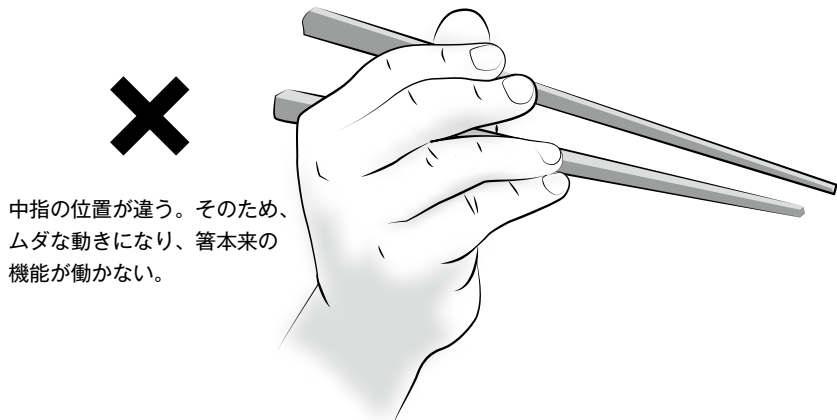


01 箸をきちんと持って使えない

「自分は正しい」と間違った使い方をしている大人、「箸の使い方なんてどうでもよい」と考えている大人。どちらからも、知らず知らず、子どもはしっかり学んでしまっています。開き直らず、親子で、いっしょに正しい持ち方に挑戦してみましょう。



幼児に多い「握り箸」。
2本の動きがまったく
できない。



中指の位置が違う。そのため、
ムダな動きになり、箸本来の
機能が働かない。

正しい使い方を知っている？

多くの子どもが箸を使い始めるのは3～4歳頃からです。最初は「握り箸」ですが、徐々に大人の持ち方に近づいていき、5歳頃には、こぼさずに食べられるようになります。

しかし、箸の使い方を教えなければ、いくつになっても、きちんと使えるようにはなりません。小学校に入っても握り箸の子どもは珍しくはありません。たとえ大人になっても、直さなければ正しい持ち方にはならないのです。

でも、正しい持ち方や使い方を知らなければ、直すこともできないでしょう。実は箸の持ち方は、一見正しく見えるのに、実際に使うと中指の動きが間違っている、という大人は、かなり多くいます。

「自分は正しい」と思っていたあるタレントが、テレビ番組で間違いを指摘され、大恥をかいていましたが、正しい持ち方を知らなければ、誰でも同じように恥をかく可能性はあるでしょう。まずは正しい持ち方、正しい動かし方を知りましょう。

親子でそっくり？

お母さん自身「箸の使い方はあまり教えなかった」と言っているのに、箸をきちんと“使えている”という子どもが、時折います。

そのような子どもの場合、ふとお母さんの箸使いを見ると、ちゃんと正しい使い方をしていきます。つまり、お母さんの箸使いが正しければ、子どもも、さほど苦労せずに箸使いを身につけることができるということです。もちろん母親だけということではなく、父親や、祖母・祖父であっても同じです。正しい箸の使い方をしていない大人が身近にいと、自然にその箸使いを学んでいるのです。

知らず知らず「間違い」を教えている大人

逆に、大人が間違っただけの持ち方をしていると、これも子どもは、しっかり学んでしまいます。実は、親子の箸の持ち方は、かなり似ている場合が多いのです。それでも、大人の方が自分の箸使いの間違いを知っている場合は、まだいいのです。

ところが、間違っていることに気づいていなかったり、「箸使いなんてどうでもよい」と考えていたりする大人の場合は、子どもの前で堂々と間違っただけの箸使いを披露して、それを、子どもの目に焼きつけてしまうのです。おかげで子どもは、知らず知らずに間違っただけの箸使いを身につけることになってしまいます。

変な箸使いをする大人は、子どもの前で箸を使ってはいけないのかもしれない。

親子で直そう

最近は市販の「しつけ箸」を使って箸使いの練習をする家庭が増えてきているようです。しかし、特別な道具を買わなくても、そういうものが無かった時代に、多くの人はきちんと箸が使えていたのです。ですから、しつけ箸がなくても箸は使えるようになります。

箸の正しい使い方を子どもに身につけさせるには、「箸を使ってみたい」とお子さんが思った時に、親が手を添えて正しい持ち方に直してやる、ということを繰り返せばよいのです。スキンシップにもなりますし、親子でいっしょに正しい持ち方に挑戦してはどうでしょうか。

市販の「しつけ箸」に任せてしまうということは、保護者が自ら、子育てをする機会を放棄することになってしまうのです。

正しい

お箸の持ち方

箸の持ち方の基本は、2本のうち、下の箸は固定したまま、上の箸だけを動かすということです。また、箸は「一個」ではなく、ふつう2本ひと組で「一膳^{いちぜん}」と数えることも教えるとよいでしょう。

ポイント

